巻頭言

人間看護学部　学部長
森（もり）　敏（さとる）

“大学の教員に求められるものは3つある”とよく言われる。それは、①教育、②研究、③社会貢献である。これらの内いずれが欠けてもだめで、3つをバランスよくこなすことが求められる。

人間看護学部では、とりわけ「教育」のウエイトが大きく、ともすれば、“教員とは教育を行う人－教育が本務であり、他の2つは副－”と捉えられがちである。「研究」に多くの時間を割くことは、本務の「教育」を蔑ろにしているかのような感がある。また、「教育」に専念することが、「研究」を行わないexcuseになっていたりもする。

しかし、大学教員は否応なく“研究業績の評価”を受ける。新たなポジションへの応募、大学院の設置審での資格審査（マル合判定）、身近なところでは研究費の評価配分など、さまざまな場面でそれに遭遇する。大学の教員にとって、研究は教育と同様に本務であり、目を背けることはできない。

研究を実施すれば、その成果を論文として公表する必要がある。もちろん一流誌に投稿することが望ましいが、若手の研究者にとってはハードルが高いかもしれない。そこで、本誌に投稿することから始めていただきたい。本誌を活用することで、“自分の行った研究を論文にまとめる”習慣を身につけ、その上で、研究の檜舞台へとステップアップしていってほしい。